

第3回テラヘルツビジネスセミナー (THz-Biz 2012)開催報告

理化学研究所 大谷 知行

2012年1月20日(金)に秋葉原ダイビルのコンファレンスフロアを会場として、テラヘルツテクノロジーフォーラム主催第3回 テラテックビジネスセミナー (THz-biz 2012)を開催しました。

本セミナーはいわゆる学術的な研究会やワークショップと異なり、テラヘルツ技術の産業利用を目指して産官学の専門家、ユーザー、ポテンシャルユーザーが集まり、産業化やビジネス化を加速するために何をすべきかを議論することを目的として開催しています。例年1月の中旬に秋葉原に会場を借りて開催しており、今回はその3回目となります。本年のテーマは「テラヘルツ技術と産業デマンドのマッチング」でした。会の構成は例年同様に2部構成として、第1部で招待講演、第2部ではパネルディスカッションを行いました。

まず、第1部の講演では、名古屋大学・川瀬晃道教授による多彩な「テラヘルツ波応用可能性」の紹介に始まり、東レリサーチセンター・熊澤 亮一氏による「テラヘルツ波による工業材料の非破壊分析」、NHK 放送技術研究所・杉之下 文康氏による「テラヘルツ波に期待する超大容量伝送技術～次世代のテレビ スーパーハイビジョン～」、医薬品食品衛生研究所・坂本知昭氏による「医薬品品質評価科学への遠赤外/テラヘルツ分光法及びイメージング技術の導入と将来への課題」、京都大学・小川 雄一准教授による「バイオセンシングに資するテラヘルツ技術」、そして、味の素・山本 健氏による「食品に混入した異物(髪の毛や虫など)の検出技術～テラヘルツ波技術への期待～」といった話題を提供頂きました。それぞれの講演で具体的でわかりやすい応用可能性や実例が紹介され、改めてテラヘルツ波応用の幅広さや多様さが実感されました。

休憩をはさんで、第2部では、招待講演者およびテラヘルツ波の専門家を交えて、産業デマンドの解決に必要な技術開発、および、将来の新たな応用可能性についてパネル討論(モデレータ:名古屋大・川瀬教授)を行いました。まず、第1部でのポテンシャルユーザーからの講演を受けて、いまテラヘルツ領域で市販されている製品のレビューとして、検査装置を販売するメーカーサイド4社(大塚電子、アドバンテスト、スペクトルデザイン、浜松ホトニクス)の方々から製品の紹介がなされました。個人的な印象としては、これまでと比べて製品のクオリティが格段に向上して量産レベルに達しており、各メーカーの並々ならぬ熱意・情熱が強く感じられました。次に、製品紹介を受けて、ポテンシャルユーザー側から検査装置へのリクエストや質

問が出され、今後のテラヘルツ波関連製品の方向性や新たな用途などについて議論がなされました。また、会場からも多くの質問が寄せられ、今後のテラヘルツ波関連製品の質問も出るなど、産業化の加速に向けた活発な討論が行われました。また、本年度の参加者数は109名で、テラヘルツ分野への関心の高さを改めて再認識させられました。今後もこのようなセミナーを続けていく必要性を強く感じました。

今後のビジネスセミナーの予定についてですが、平成24年度は9月5-7日に幕張メッセで開催される分析展(新名称「JASIS」)においてセミナーを企画しております。プログラムは現在検討中ですが、9月6日(木)の午後1時からの開催を予定していますので、ぜひ奮ってご参加頂ければ、と思います。

なお、本セミナーの実施にあたっては、(株)オプトロニクス社、および、(株)東京インスツルメンツに多大な協力を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。



THz-biz 2012 の会場の様子